

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	1490900022
法人名	医療法人社団 裕正会
事業所名	グループホーム ウェルケア新羽
訪問調査日	平成 20年10月10日
評価確定日	平成 20年11月10日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1490900022
法人名	医療法人社団 裕正会
事業所名	グループホーム ウェルケア新羽
所在地	横浜市港北区新羽町2153 (電話) 045-590-5557

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市港北区新吉田東5丁目76-35		
訪問調査日	平成20年10月10日	評価確定日	平成20年11月10日

【情報提供票より】(20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 10 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 10.1 人	

(2) 建物概要

建物構造	単独	木造	造り
	2 階建て		1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	67,270 円	その他の経費(月額)	26,500 円
敷金	有()円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(15,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	6 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84 歳	最低 71 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ウェルケアクリニック、やまびこクリニック、清水歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- ・事業所は地下鉄新羽駅より徒歩7分の交通の便の良いところにある。居室やリビングは全体に広くゆったりとしている。また、利用者は広い庭で野菜や草花を栽培し生活を楽しんでいる。
- ・「大切な人だから」を理念に掲げ、利用者一人ひとりを尊重し、明るく家庭的なゆとりのある生活をおくることを運営の基本にしている。
- ・町内会主催の芋ほり、運動会、清掃活動等に積極的に参加し、また、事業所で開催するボランティアによる音楽会などの行事に地域住民を招き親交を図っている。
- ・近隣の介護老人保健施設の医師・訪問看護師・理学療法士・言語聴覚士・管理栄養士との連携体制が整っており、利用者や家族の安心感につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回評価の指摘事項である「研修成果の職員共有」については、毎月の定例会議で全職員に研修成果を周知改善している。また、「1階ユニットの家庭的雰囲気づくり」の指摘については、努力の成果がうかがえる。
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価は職員2名が行ったものを、管理者が確認し、更に全職員から意見を聞き作り上げた。これらの作業の過程で評価の意義を理解し、認知症介護の在り方を再認識することができた。
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は4~6か月の間隔で開催し、参加者は地区連合会長、社会福祉協議会、地域包括支援センター、家族代表および法人内3グループホームの管理者である。 ・会議では事業所の運営状況を報告し、参加者から意見、助言をもらっている。他グループホームとの意見交換でサービス改善の気づきを得ている。
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要事項説明書に事業所の苦情相談窓口を明記し、契約時に家族に説明している。また、ご意見箱を玄関に設置し、毎年定例的に家族会を開催し、家族の意見や苦情を聞く機会をつくっている。 ・利用者の暮らしぶりや健康状態を毎月書面で報告し、面会時は利用者の状態を報告し、家族の意見や要望を聞いている。
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会主催の芋掘り、運動会、清掃活動等に参加し、また、近隣の介護老人保健施設の納涼祭に参加し地域住民との交流を深めている。 ・事業所で開催の音大生によるコンサートには地域住民に参加を呼びかけ、また、自治会の「子供110番の家」に登録し、地域住民との連携を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「大切な人だから」を理念に掲げている。一人ひとりを尊重し、利用者が地域の住人として、明るく家庭的なゆとりのある生活がおくれることを事業所運営の基本にし、理念の実現に努めている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念は玄関、事務室、リビングの壁に掲示してある。 ・毎月の定例会議で、管理者が理念の意義や気持ちを思いやる接遇について職員に周知している。職員間で家庭的な雰囲気を絶やさない介護について話しあっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内会主催の芋掘り、運動会、清掃活動等に参加し、近隣の介護老人保健施設の納涼祭等に参加し、地域住民との交流を深めている。 ・事業所で開催の音大生によるコンサートには地域住民に参加を呼びかけ、また、自治会の「子供110番の家」に登録し、地域住民との連携を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は職員2名が行ったものを、管理者が確認し、更に全職員から意見を聞き作り上げた。これらの作業の過程で評価の意義を理解し、認知症介護の在り方を再認識することができた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議は4～6か月の間隔で開催し、参加者は地区連合会長、社会福祉協議会、地域包括支援センター、家族代表及び法人内3グループホームの管理者である。 ・会議では事業所の運営状況を報告し、参加者から意見、助言をもらっている。他グループホームとの意見交換でサービス改善の気づきを得ている。		

ウエルケア新羽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・港区福祉保険センターサービス課と生活保護の利用者に関する相談をしている。事業所の運営状況を報告しアドバイスを受けている。 ・利用者の意見や苦情を聞く橋渡しとして介護相談員の受け入れを検討している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・利用者の健康状態や生活状況、行事に参加している利用者の表情などを記した報告書を作成し、小遣帳の報告と一緒に郵送している。 ・面会時は利用者の状態を詳細に報告している。面会が少ない家族には管理者が電話で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、契約時に家族に説明している。 ・意見箱を玄関に設置し、また、毎年定例的に家族会を開催し、家族の意見や苦情を聞く機会をつくっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員の定着率は高く、開設後2年間法人内の異動はない。管理者が職員の意見をよく聞き、働きやすい雰囲気をつくっている。 ・職員の異動があれば、利用者によく説明し、不安を感じないように見守っている。新しい職員には日勤を多くし、利用者によく馴染めるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員全員の出席を前提に3事業所の法人内合同研修を定例的に実施している。また、2か月ごとに外部講師による主任研修を行っている。 ・研修受講の成果を毎月の会議で報告し研修成果を全職員が共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・横浜市グループホーム連絡会に出席し、同業者との情報交換に努めている。 ・法人内の他グループホームや近隣の介護老人保健施設との交流を活発に行い、サービス改善の気づきを得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・管理者が入居者の自宅を訪問し生活状況を把握し、また、本人と家族にホームに来てもらい、家庭同様の生活が続けられることを説明し納得してもらっている。希望に応じて体験入居も実施している。 ・入居後職員は家族とよく話し合い、本人が早く生活に馴染れるように見守っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員の声掛けや、利用者の自発的な発案による掃除、食器洗い、洗濯たたみ等の家事を行ったときは、ねぎらいの言葉を掛け感謝の気持ちを伝えている。 ・利用者から「手伝おうか」の声が聞かれた時、職員も一緒に過ごす喜びを感じている。 ・昔の話や故郷の話、礼儀を教えてもらうこともある。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・居室担当制にし、利用者の希望や意向を把握している。利用者の困っている事や望んでいる事に気づいた時は「申し送りノート」に記入し職員全員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・入居時に利用者・家族の希望を聞き、暫定的な介護計画を先ず作成し、その後本人の希望や生活状況を把握し、カンファレンスで職員の意見を聞き介護計画を作成している。 ・訪問看護師や法人の管理栄養士、リハビリスタッフの意見を聞き介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画は3～6か月ごとに見直しを行っている。 ・居室担当者がアセスメントシートで状態をチェックし、利用者に状態変化があった場合にはカンファレンスを行い、介護方法を見直し、結果を家族に連絡している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・医療法人としての特徴を活かし、「医療処置を受けながらの生活継続」「終末期の入院の回避」が可能である。 ・法人内の介護老人保健施設の医師、理学療法士・言語聴覚士に相談・協力が得られ、管理栄養士の献立により食事を管理している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・法人の協力医がかかりつけ医である。月2回協力医が訪問診療を行っている。必要に応じ歯科医が往診している。 ・法人としての医療連携体制がととのっており、協力医が受診相談に、また、訪問看護師が健康相談に応じている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・入居時に「重度化した場合における対応に係わる指針」を説明し同意を得ている。利用者・家族、訪問診療医師、訪問看護師、介護職員が共通認識のもとに、連携を取りながら支援している。 ・訪問看護師や介護職員を交えて、重度化や終末期に対応できるように勉強会を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・「さん」づけの名前の呼び方を徹底し、利用者の誇りやプライバシーを損ねる言葉遣いをしないように注意している。 ・排泄介助では特にプライバシーを損ねることがないように、人目に触れないよう配慮している。 ・介護記録等の個人情報は鍵の掛かる書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者の希望する生活のペースに合わせて、散歩・畑の水遣り・レクリエーションや体操・ゲームなど柔軟に対応している。 ・天候の悪い日は室内で出来る事を考え、居間で楽しめるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者の好き嫌いを考慮し、献立は法人内の管理栄養士が作成している。 ・利用者が畑で栽培した野菜が食卓を彩り、配膳・後片付けを一緒に行い、また、おやつを自分たちで作ったりしている。職員と会話をしながら利用者には楽しい食事になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は週2回、原則午後であるが、希望があれば午前中でも毎日でも入れるようにしている。嫌がる利用者にはタイミングのよい声掛けで入浴を促している。 ・浴室は広く、清潔で整理が行き届いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・生活歴の中で親しんできた掃除、食事・洗濯の手伝い等は女性を中心に利用者が自発的に行っている。 ・ピアノを弾ける利用者がいて、歌やボランティアのコンサートを全員で楽しむ雰囲気がある。ひとりで楽しみの場が作れない利用者には、職員と一緒に畑の水遣りや歌を唄ったり支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日は散歩や畑の水遣り、野菜の収穫や買い物に行くなど外に出る機会を多くしている。月1回は回転寿司やファミレスで外食を楽しんでいる。 ・法人の介護老人保健施設の納涼祭に家族と一緒に参加し、また、地域のお祭りに積極的に参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・交通量が激しく玄関の鍵は通常閉じている。また、前面が階段の2階入り口は安全の為施錠している。外出願望の利用者は職員が見守り、外出の意向があればすぐに対応している。 ・居室は中から施錠することができ、利用者の自由に任せている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年に1回、防災訓練を消防署立会いの下で実施し、専用電話機や消火器の使用訓練を行っている。 ・災害時緊急連絡網を整備し、目につくところに掲示している。 ・地域の合同訓練に参加し、災害時の地域の協力の体制作りをすすめている。	○	・災害時に地域の協力が得られるように体制整備を望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・献立は法人内の管理栄養士が作り、利用者の好き嫌いも取り入れバランスの取れた食事になっている。 ・食事摂取量・水分は毎日記録し、摂取の少ない利用者には職員が声を掛け、好きなものを用意している。特に水分には気を遣い、純粋水やお茶寒天で補っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関やベランダには季節の花や観葉植物が植えられている。明るく、広い居間にはテレビ・エレクトーン・大型テレビがあり、3か所に置かれたソファで利用者がくつろいでいる。 ・居間から玄関へのドアを開放し、玄関前の椅子に座り外を眺めて過ごす人もいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には馴染みのベット、寝具、箆笥、机、椅子、鏡台等が置かれ、仏壇で先祖を偲ぶ人もいて、利用者の過ごし易い部屋になっている。 ・入口には模様が異なるおしゃれな暖簾を掛け、開放しても部屋の中が見えぬように、自分の部屋が確認出来るように配慮している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームウエルケア新羽
(ユニット名)	新羽一丁目
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市港北区新羽町2153番地
記入者名 (管理者)	斯波 芳則
記入日	平成 20 年 9 月 21 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「大切な人だから」の理念の下地域の中で一人一人を尊重し明るく家庭的なゆとりのある生活が送れる様な介護を行っている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	玄関、事務室、フロアーに理念を掲示し会議で管理者より意義が伝えられ、接遇の話にて気持ちを思いやる事など、家庭的な雰囲気を絶やす事無いよう介護の考え方を職員間で統一して行っている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	開所式に近所・地域の方を招き理念の説明を行い散歩の機会を定期的に設け、挨拶を交わすなど日常あたりまえの生活を地域の中でのふれあいを大切にしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	毎日の散歩で挨拶を交わし、農家の方より野菜をいただいたりして交流を深めている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の芋掘り、運動会、清掃活動への参加、法人内の介護老人保健施設での納涼祭等に参加し地域の方と楽しく交流している。自治会の子ども110番の家に登録している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	また緑道委員会のワークショップで地域の高齢者が安心して散歩ができ交流が深まる緑道の提案を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員2名が行った自己評価を管理者が確認し、職員から意見を聞き評価の実施の意義の理解を得る事により認知症介護の再認識が出来る。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同地域同法人のグループホームと合同で運営推進会議を行っている。会議では事業報告を行い運営推進委員より意見、助言をいただき他のグループホームのサービスの実際を聞く事によりサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	港北福祉保健センターと生活保護を受けている方の入居相談も積極的に行っている。そしてその方の状態報告書も福祉保健センターの担当者に毎月送付し連絡を密にしている。	○	介護相談員の受け入れを行っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し会議にて報告している。入居前相談の際に状況により家族より相談を受けて必要に応じて相談している。現入居者については該当する方はいないが、制度についての勉強は継続的に行っていきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一度の会議において管理者より入居者の処遇について話をして、言葉使いも含め職員同士が常に注意し心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、契約書に分かりやすく権利義務を明示し、入居する前の面接及び入居時に十分時間を使って説明し、本人及びその家族の同意を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会の実施を定期的に行い家族から意見を聞いている、職員は本人が困っている事について話を聞き必要に応じカンファレンスを行い家族へも報告し改善するようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、利用者の食事、排泄、入浴、睡眠、健康状態、行事に実施等の状況を記入した報告書とお小遣帳の写しを郵送にて知らせ家族の面会時にも利用者の状態を知らせている。面会が少ない家族には管理者が電話で伝えている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に重要事項説明書にて苦情の相談窓口の説明をしている。家族会や運営推進会議、ご家族の面会時に話をし意見や要望を聞いている。また気軽に意見や要望、苦情を聞ける環境を考え、玄関にご意見箱を設置している。家族の話を聞き更に良い運営ができるよう考えている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常に職員の意見を聞き、必要に応じて話し合いの場を設けている。月一回フロア会議を開き、意見交換をする。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の変化・要望に合わせて対応を出来る職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者、職員の話しを聞きながら働きやすい環境の提供を考えている。職員の異動や退職時には利用者には説明し、納得してもらおうように努めているが、不安定になる方の見守りは十分に行い自然に安定するまで待つようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内のグループホームとの合同研修(3つのグループホームがテーマを決め発表会を実施)、法人にて主任研修の実施(2ヶ月に一度)、法人内事業所への外部研修(毎週月曜日)を実施している。また研修報告は毎月の会議にて報告し共有している。</p>	<p>○</p> <p>定期的に法人内グループホームとの交換研修を実施したい。平成20年8月より同法人の療養通所介護にて研修実施。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>横浜市グループホーム連絡会のブロック会に出席、運営推進会議に同地域のグループホーム管理者を招くなどして情報交換・収集を行っている。また法人内のグループホームや介護老人保健施設との交流もある。</p>	<p>○</p> <p>グループホーム連絡会が行う講習会の手伝いをブロック会を通じ行って行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>働きやすい職場をテーマに法人内主任研修を実施している。主任研修は管理者、主任同士が置かれている立場を共有、理解しあえる機会にもなっている。管理者、主任のストレスを軽減し、そして職員が生き生きと働けるよう取り組んで行きたい。</p>	<p>○</p> <p>より良い職場の環境づくり、ストレスの軽減の為の職員相互の関係の向上に努める。食事会等を定期的に設ける。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の個々の特性を大切にしている。また法人内の介護老人保健の教育委員会が中心となった勉強会への参加、また法人内グループホーム研修での発表会の実施等法人の資源を活用し向上心が維持できるよう努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の状態像や生活歴、希望等を把握して画一的な計画ではなく、一人ひとりに沿って具体的な介護計画を作成している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時には、必ず本人面談を家族同席のうえ実施し、積極的に家族との関わりを持ちながら利用に結び付けている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人の状態に応じ他種の介護保険事業所の紹介もしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込時に本人、家族にホームに来てもらい生活の様子を確認いただき、生活の様子を説明し納得していただくようになっている。また必要に応じて現在、生活している所へ訪問し生活実態をしようとしている。ご希望により体験入居も行うなど、本人、家族と良く話をしながら利用に結び付けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の声掛けや、自発的に家事(食器洗い、食器拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ等)を行っていただいた時にはねぎらいの言葉をかけ感謝の気持ちを伝えている。利用者からも「手伝おうか」の声も聞かれ職員も一緒に過ごす喜びを感じている。昔の話や生まれ育った故郷の話を開いたり、礼儀を教えようともある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事の際には、家族も招待し利用者、職員と一緒に楽しんでいる。毎月、報告書にて近況を報告し、状態の変化がある時には電話で様子を伝え、介護方法を伝え相談し時には家族の手をかりて理解を得ながら支援をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	1年に1回、家族会を開催し食事会も兼ねて交流を図っている。行事などには家族にも積極的に参加を促し一緒に楽しんでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を制限をせず、いつでも来てもらえるように努めている。面会時も、職員や他利用者に気を使わずにお話が出るよう配慮している。外出・外泊も家族としてもらえるようお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	歌の会(毎週)、誕生会、外食(不定期)等、皆で活動する機会を設けており日常の散歩や家事等を行う中で職員は利用者の中に入り交流の機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族への十分な説明・納得いただきながら退去先の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の居室担当制により居室担当者が利用者の希望や意向を把握している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族に説明を行い本人が以前使用していた家具など馴染み深い物を持ち込んで頂くようにしている。また本人、家族より生活歴や直近の様子を聞き把握し必要に応じサービス利用の事業者より情報をいただくようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、バイタルチェックを行い記録している。日々の入居者様の精神状態・身体状態を観察し、活動性の低下に十分注意を払い一日を安全安楽に過ごして頂くように見守っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に相談資料と本人、家族の希望を聞き介護計画を作り入居後本人の希望や生活状況を把握して、カンファレンスにて職員の意見も聞きながら介護計画を作っている。	○	家族をまじえたカンファレンスを定期的に行いたい。訪問看護師、同法人の管理栄養士、リハビリスタッフと状態の変化を相談し指示や助言をいただいている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	居室担当にてアセスメントシートを作成し3～6ヶ月の間に介護計画の見直しを行っている。状態変化がある場合にはカンファレンスを行い介護方法を見直し、家族にも連絡をしている。		

ウエルケア新羽(新羽一丁目)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活確認表、ケース記録を毎日、一人ひとりの様子を具体的に記録している。また気づきメモを記載し共有しカンファレンスや介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の介護老人保健施設の医師・理学療法士・言語聴覚士・管理栄養士にも相談・協力が得られ管理栄養士による献立により食事が管理されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホーム玄関と地区センターにボランティア募集のポスターを掲示している。消防立会いの消防訓練を毎年企画し地域の運動会にお招きいただき参加している。	○	ホームのたよりを作成し町内会はじめ地区センターなどに配布し、さらに活性化したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	契約訪問看護ステーション、法人内の介護老人保健施設の理学療法士・言語聴覚士・管理栄養士等と個々の状態変化がある場合相談している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの主任ケアマネジャーに運営推進会議の委員をお願いしており、助言をいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族同意のもと月に2回、訪問診療(入院が必要な場合同法人の病院に入院ができる)をお願いしている。結果身体に変化がある場合には家族に報告し今後の治療についての説明と同意を得るようにしている。また同一法人のクリニック受診・相談、訪問看護師の訪問・相談、歯科医の訪問など家族にも納得していただいている。		

ウエルケア新羽(新羽一丁目)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	訪問看護師、介護職員にて勉強会を行い具体的な対応方法や職員への意識づけを行っている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	訪問看護師、介護職員にて勉強会を行い具体的な対応方法や職員への意識づけを行っている。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者が会議で尊敬を持った言葉掛けをするように話をしている。部屋に入るときの挨拶や名前の呼び方は「～さん」と失礼のないよう徹底している、記録等の個人情報は鍵のかかる書庫に保管している。玄関から中が見えないようのれんを付けプライバシーを保つ工夫をしている。	○ 個人情報に関わるものは全てシュレッダー処理している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一律に同じ事をせず、個々の意思に任せた生活を送っていただいている。介護者は日常の中から本人の行いたい事を見極め支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが利用者の希望により、散歩、昼寝、TVを見たり畑の水遣り、レクリエーションや体操、ゲームをしたりしている。散歩は天候により行けない事があるため納得いただける様室内でできる事を考え納得いただくようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容の乱れ汚れがあった場合は、自尊心を傷つけないように心配りをし、居室で直すなど配慮している。外食や買い物の際は着替えをし出かけるよう支援している。理・美容室は地域のお気に入りの理・美容室に行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員はサポートの必要性のある入居者の隣に座り、皆と会話をしながらサポートと一緒に食事をします。庭の畑でとった野菜が食卓に並んだりして楽しい食卓です。利用者で出来る方には盛り付けや下膳、食器洗いや、食器拭きも職員と一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在は、お酒を飲む方、タバコを吸う方がいませんが。飲み物、おやつについては、好みの物を一人ひとりの状況に合わせて日常的に支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表により排泄のパターンを把握することで、さりげなくトイレ誘導します。声掛けによる失禁の軽減を図りハビリパンツから綿パンツに変更する支援に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は原則午後を決めているが、気持ちよく入っていただくため午前中に入浴を進める場合もある。ほぼ毎日入られる方もいるが入浴が嫌な方もいる。週2回は入浴していただくようにしている。ホームで用意したシャンプーやリンスを自由に使用し入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、散歩、レクリエーション、入浴などで生活のリズムをつくり、活動性を上げ、安眠につなげている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干したり、たたんだり、出来る方には掃除や食器洗いや食器拭きを行っていただいている。皆が同じ事をするのではなく、声掛けして無理なく行っていただいている。天気が良い日は散歩にお誘いし、畑の水遣り、週に1回の歌の会を行っている。又夕食後21時までテレビを楽しまれたり自室で本を読むなどして楽しめる時間の提供に努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族の了解を得てホーム側で管理しているが、買い物に行った時には個々にレジ等で支払いを行うようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、希望に応じ散歩や庭の畑で水遣りや野菜を収穫し買い物に行ったりしている。外食の機会を設け、法人内の介護老人保健施設の行事、地域の行事にも参加している。	○	月に1度は外食したい。外食が難しい場合には、出前をとり楽しんでいる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	回転寿司やファミリーレストラン等に皆ででかけたり、両ユニット合同で運動会や芋ほりに出かけ年に1度は港北公会堂に舞台を見に行っている。又法人内の介護老人保健施設で行われる納涼祭には家族も一緒に行き楽しいひと時を過ごしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を必要に応じて利用していただいている。はがきをホーム内に備え、切手も記念切手などを用意し希望に応じ切手を選んでもらうなどしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限をかけていないので家族の都合に合わせて訪問できる。建物の周囲に草花を植え温かみを感じられるよう工夫している。リビングにはソファを置き長い時間会話等が出来る環境作りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は利用者の生活状況を把握し、自由な生活を提供している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム周辺は交通量が多く門の鍵はかけざるを得ない状況。(回せば開きます。)日々の利用者の状態を把握し、利用者の居場所を良く確認して外に出たい雰囲気を察知した場合は散歩と一緒にいくなどして対応している。サッシの鍵はなるべくかけない様になっている。居室の鍵をかけることは無いが夜間施錠する利用者もいるが外から開けられるようになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は個々の生活範囲を把握し、物干し等は職員が必ず近くでいっしょにするようにしている。夜間はお部屋のドアをそっと開け見回りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所、管理方法は明確に取り決め確実に行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の歩行状態の確認を散歩の時にいっしょに行い情報共有をしている。食事も咀嚼、嚥下状態により食形態を変えている。服薬マニュアルがあり準じて与薬している。事故が発生した場合には事故報告書の作成を行い問題点を話し合い再発防止に努めている。年1度消防訓練を行っている。		

ウエルケア新羽(新羽一丁目)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	契約訪問看護ステーション主催の勉強会へ参加、緊急時マニュアルの作成をし備えている。	○	急変時(発熱、転倒時)の対応をテーマに法人内研修で発表を行った。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年1度行っている。又地域の合同訓練に参加し(今回初)地域の協力が得られるよう働きかけていく。	○	訓練は消防署員立会いにて、消火器の使用訓練も行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒のリスクについては契約時に説明し納得いただいている。状態に変化があった場合などは随時連絡を行い、月一回状態報告書を郵送し報告している。家族が面会に来られた時には直近の様子を伝え、訪問診療医にも本人本位の生活が継続出来るよう相談しながらケアの共有を行うようにしている。必要に応じ家族に医師より状態の説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルをチェックし記録する事によりバイタル異常時の情報を共有し経過観察、契約訪問看護ステーションへ連絡し指示を仰ぎ、また必要に応じ急行してもらい医療機関への速やかな搬送を行うようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに個人服薬情報があり、職員は随時確認することが出来る、また変更があった場合も申し送りを徹底し確認している、服薬マニュアルがあり与薬には十分気をつけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩・体操等の運動をしている、下剤の内服だけに頼らず、水分摂取、牛乳、ヨーグルト、かんでんなどを使った食べ物で工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行い、必要に応じて介助している、訪問歯科とも相談し支援している。		

ウエルケア新羽(新羽一丁目)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を把握する為のチェック表を作成し毎日記録している。その都度、摂取量が少ない本人には声かけし好きな飲み物を用意してすすめている。献立は法人内の介護老人保健施設の管理栄養士が作り、主菜は施設より配食され栄養バランスの取れた食事を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを作成し、職員に知識を持ってもらうようにしている。外部研修に参加し会議で報告し全ての感染症ではないが感染予防と蔓延防止の対策を講じている。	○	全ての職員を外部研修に参加させたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理表を作成し衛生管理につとめている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周り駐車場・建物の周囲を清潔にし玄関、庭には草花・畑には作物が出来、誰もが親しめる環境作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の草花がある。リビングはカーテンで日差しを遮りリビングから玄関への戸を開放し、玄関に置いてある椅子に腰かけの外を見て座ってすごされる方、ソファに座って大型テレビを見てすごされる方、その人なりの過ごし方をされている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのコーナー、椅子、テーブルの位置等を工夫し居場所を確保している。		

ウエルケア新羽(新羽一丁目)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者好みのベット、寝具、箆筒、机、椅子、鏡台、仏壇、テレビ等一人一人思いのものがああり、それぞれ過ごしやすい部屋になっている。ドアを開放しても部屋の中が見えぬようおしゃれなれんをかけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレには気にならない程度の消臭剤を置き、掃除の際はフロアの窓を開け空気の入換えを行っている。冷暖房の調整をこまめに行い、備え付けの24時間換気設備を活用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はフルフラットであり余計なものは置かないよう整理整頓をこころがけている。また浴室、トイレ等必要箇所に手摺の設置をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常に職員が注意をはらい、できる事は時間がかかっても見守り、できない場合はさりげなく職員がカバーする。「お手伝いしても良いですか〜」		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内で園芸活動を行っている。季節によりウッドデッキにてお茶を飲んだりして楽しんでいる。「今日は天気も良いしウッドデッキでお茶でも飲みませんか〜」		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

ウエルケア新羽(新羽一丁目)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

庭の畑で育てた野菜が食卓に並びます、皆で収穫し皆で調理し皆で楽しく食事をします。週に1回音楽療法士による歌の会があり皆で楽しくリズムに合わせて身体を動かし手拍子をとって大声で歌い、大声で笑い音楽を満喫しています。時には外食をしたり出前をとったりと笑顔ある光景がホームにはいっぱいあります。春はお花見、また夏にはスイカ割りや流しそうめん、納涼祭に家族と出かけたり、秋には地域の方と芋ほりや運動会、冬には家族を招いてのクリスマス会を開催する等季節に応じた生活を楽しんでいます。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームウエルケア新羽
(ユニット名)	新羽二丁目
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市港北区新羽町2153番地
記入者名 (管理者)	斯波 芳則
記入日	平成 20 年 9 月 21 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「大切な人だから」の理念の下地域の中で一人一人を尊重し明るく家庭的なゆとりのある生活が送れる様な介護を行っている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、事務室、フロアーに理念を掲示し会議で管理者より意義が伝えられ、接遇の話にて気持ちを思いやる事など、家庭的な雰囲気を絶やす事無いよう介護の考え方を職員間で統一して行っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	開所式に近所・地域の方を招き理念の説明を行い散歩の機会を定期的に設け、挨拶を交わすなど日常あたりまえの生活を地域の中でのふれあいを大切にしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩で挨拶を交わし、農家の方より野菜をいただいたりして交流を深めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の芋掘り、運動会、清掃活動への参加、法人内の介護老人保健施設での納涼祭等に参加し地域の方と楽しく交流している。自治会の子ども110番の家に登録している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	また緑道委員会のワークショップで地域の高齢者が安心して散歩ができ交流が深まる緑道の提案を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員2名が行った自己評価を管理者が確認し、職員から意見を聞き評価の実施の意義の理解を得る事により認知症介護の再認識が出来る。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同地域同法人のグループホームと合同で運営推進会議を行っている。会議では事業報告を行い運営推進委員より意見、助言をいただき他のグループホームのサービスの実際を聞く事によりサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	港北福祉保健センターと生活保護を受けている方の入居相談も積極的に行っている。そしてその方の状態報告書も福祉保健センターの担当者に毎月送付し連絡を密にしている。	○	介護相談員の受け入れを行っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し会議にて報告している。入居前相談の際に状況により家族より相談を受けて必要に応じて相談している。現入居者については該当する方はいないが、制度についての勉強は継続的に行っていきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一度の会議において管理者より入居者の処遇について話をして、言葉使いも含め職員同士が常に注意し心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書に分かりやすく権利義務を明示し、入居する前の面接及び入居時に十分時間を使って説明し、本人及びその家族の同意を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の実施を定期的に行い家族から意見を聞いている、職員は本人が困っている事について話を聞き必要に応じカンファレンスを行い家族へも報告し改善するようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の食事、排泄、入浴、睡眠、健康状態、行事に実施等の状況を記入した報告書とお小遣帳の写しを郵送にて知らせ家族の面会時にも利用者の状態を知らせている。面会が少ない家族には管理者が電話で伝えている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項事項説明書にて苦情の相談窓口の説明をしている。家族会や運営推進会議、ご家族の面会時に話をし意見や要望を聞いている。また気軽に意見や要望、苦情を聞ける環境を考え、玄関にご意見箱を設置している。家族の話を聞き更に良い運営ができるよう考えている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見を聞き、必要に応じて話し合いの場を設けている。月一回フロア会議を開き、意見交換をする。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の変化・要望に合わせて対応を出来る職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員の話しを聞きながら働きやすい環境の提供を考えている。職員の異動や退職時には利用者説明し、納得してもらおうように努めているが、不安定になる方の見守りは十分に行い自然に安定するまで待つようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	定期的に法人内グループホームとの交換研修を実施したい。平成20年8月より同法人の療養通所介護にて研修実施。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	グループホーム連絡会が行う講習会の手伝いをブロック会を通じ行って行きたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	より良い職場の環境づくり、ストレスの軽減の為の職員相互の関係の向上に努める。食事会等を定期的に設ける。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人の状態に応じ他種の介護保険事業所の紹介もしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込時に本人、家族にホームに来てもらい生活の様子を確認いただき、生活の様子を説明し納得していただくようになっている。また必要に応じて現在、生活している所へ訪問し生活実態をしようとしている。ご希望により体験入居も行うなど、本人、家族と良く話をしながら利用に結び付けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の声掛けや、自発的に家事(食器洗い、食器拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ等)を行っていただいた時にはねぎらいの言葉をかけ感謝の気持ちを伝えている。利用者からも「手伝おうか」の声も聞かれ職員も一緒に過ごす喜びを感じている。昔の話や生まれ育った故郷の話を開いたり、礼儀を教えようともある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事の際には、家族も招待し利用者、職員と一緒に楽しんでいる。毎月、報告書にて近況を報告し、状態の変化がある時には電話で様子を伝え、介護方法を伝え相談し時には家族の手をかりて理解を得ながら支援をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	1年に1回、家族会を開催し食事会も兼ねて交流を図っている。行事などには家族にも積極的に参加を促し一緒に楽しんでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を制限をせず、いつでも来てもらえるように努めている。面会時も、職員や他利用者に気を使わずにお話が出るよう配慮している。外出・外泊も家族としてもらえるようお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	歌の会(毎週)、誕生会、外食(不定期)等、皆で活動する機会を設けており日常の散歩や家事等を行う中で職員は利用者の中に入り交流の機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族への十分な説明・納得いただきながら退去先の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の居室担当制により居室担当者が利用者の希望や意向を把握している。	○	困っている事や望んでいる事を居室担当者が随時カンファレンスを行い対応している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族に説明を行い本人が以前使用していた家具など馴染み深い物を持ち込んで頂くようにしている。また本人、家族より生活歴や直近の様子を聞き把握し必要に応じサービス利用の事業者より情報をいただくようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、バイタルチェックを行い記録している。日々の入居者様の精神状態・身体状態を観察し、活動性の低下に十分注意を払い一日を安全安楽に過ごして頂くように見守っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に相談資料と本人、家族の希望を聞き介護計画を作り入居後本人の希望や生活状況を把握して、カンファレンスにて職員の意見も聞きながら介護計画を作っている。	○	家族をまじえたカンファレンスを定期的に行いたい。訪問看護師、同法人の管理栄養士、リハビリスタッフと状態の変化を相談し指示や助言をいただいている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	居室担当にてアセスメントシートを作成し3～6ヶ月の間に介護計画の見直しを行っている。状態変化がある場合にはカンファレンスを行い介護方法を見直し、家族にも連絡をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活確認表、ケース記録を毎日、一人ひとりの様子を具体的に記録している。また気づきメモを記載し共有しカンファレンスや介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の介護老人保健施設の医師・理学療法士・言語聴覚士・管理栄養士にも相談・協力が得られ管理栄養士による献立により食事が管理されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホーム玄関と地区センターにボランティア募集のポスターを掲示している。消防立会いの消防訓練を毎年企画し地域の運動会にお招きいただき参加している。	○	ホームのたよりを作成し町内会はじめ地区センターなどに配布し、さらに活性化したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	契約訪問看護ステーション、法人内の介護老人保健施設の理学療法士・言語聴覚士・管理栄養士等と個々の状態変化がある場合相談している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの主任ケアマネジャーに運営推進会議の委員をお願いしており、助言をいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族同意のもと月に2回、訪問診療(入院が必要な場合同法人の病院に入院ができる)をお願いしている。結果身体に変化がある場合には家族に報告し今後の治療についての説明と同意を得るようにしている。また同一法人のクリニック受診・相談、訪問看護師の訪問・相談、歯科医の訪問など家族にも納得していただいている。		

ウエルケア新羽(新羽二丁目)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	訪問看護師、介護職員にて勉強会を行い具体的な対応方法や職員への意識づけを行っている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	訪問看護師、介護職員にて勉強会を行い具体的な対応方法や職員への意識づけを行っている。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者が会議で尊敬を持った言葉掛けをするように話をしている。部屋に入るとき挨拶や名前呼び方は「～さん」と失礼のないよう徹底している、記録等の個人情報は鍵のかかる書庫に保管している。玄関から中が見えないようれんを付けプライバシーを保つ工夫をしている。	○ 個人情報に関わるものは全てシュレッダー処理している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一律に同じ事をせず、個々の意思に任せた生活を送っていただいている。介護者は日常の中から本人の行いたい事を見極め支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが利用者の希望により、散歩、昼寝、TVを見たり畑の水遣り、レクリエーションや体操、ゲームをしたりしている。散歩は天候により行けない事があるため納得いただける様室内でできる事を考え納得いただくようにしている。	○ 本人の希望時間に入浴ができるよう心がけている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容の乱れ汚れがあった場合は、自尊心を傷つけないように心配りをし、居室で直すなど配慮している。外食や買い物の際は着替えをし出かけるよう支援している。理・美容室は地域のお気に入りの理・美容室に行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員はサポートの必要性のある入居者の隣に座り、皆と会話をしながらサポートし一緒に食事をします。庭の畑でとった野菜が食卓に並んだりして楽しい食卓です。利用者で出来る方には盛り付けや下膳、食器洗いや、食器拭きも職員と一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在は、お酒を飲む方、タバコを吸う方がいませんが。飲み物、おやつについては、好みの物を一人ひとりの状況に合わせて日常的に支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表により排泄のパターンを把握することで、さりげなくトイレ誘導します。声掛けによる失禁の軽減を図りハビリパンツから綿パンツに変更する支援に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は原則午後を決めているが、気持ちよく入っていただくため午前中に入浴を進める場合もある。ほぼ毎日入られる方もいるが入浴が嫌な方もいる。週2回は入浴していただくようにしている。ホームで用意したシャンプーやリンスを自由に使用し入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、散歩、レクリエーション、入浴などで生活のリズムをつくり、活動性を上げ、安眠につなげている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干したり、たたんだり、出来る方には掃除や食器洗いや食器拭きを行っていただいている。皆が同じ事をするのではなく、声掛けして無理なく行っていただいている。天気が良い日は散歩にお誘いし、畑の水遣り、週に1回の歌の会を行っている。又夕食後21時までテレビを楽しまれたり自室で本を読むなどして楽しめる時間の提供に努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族の了解を得てホーム側で管理しているが、買い物に行った時には個々にレジ等で支払いを行うようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、希望に応じ散歩や庭の畑で水遣りや野菜を収穫し買い物に行ったりしている。外食の機会を設け、法人内の介護老人保健施設の行事、地域の行事にも参加している。	○	月に1度は外食したい。外食が難しい場合には、出前をとり楽しんでいる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	回転寿司やファミリーレストラン等に皆ででかけたり、両ユニット合同で運動会や芋ほりに出かけ年に1度は港北公会堂に舞台を見に行っている。又法人内の介護老人保健施設で行われる納涼祭には家族も一緒に行き楽しいひと時を過ごしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を必要に応じて利用していただいている。はがきをホーム内に備え、切手も記念切手などを用意し希望に応じ切手を選んでもらうなどしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限をかけていないので家族の都合に合わせて訪問できる。建物の周囲に草花を植え温かみを感じられるよう工夫している。リビングにはソファを置き長い時間会話等が出来る環境作りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は利用者の生活状況を把握し、自由な生活を提供している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム周辺は交通量が多く門の鍵はかけざるを得ない状況。(回せば開きます。)日々の利用者の状態を把握し、利用者の居場所を良く確認して外に出たい雰囲気を察知した場合は散歩と一緒にいくなどして対応している。サッシの鍵はなるべくかけない様になっている。居室の鍵をかけることは無いが夜間施錠する利用者もいるが外から開けられるようになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は個々の生活範囲を把握し、物干し等は職員が必ず近くでいっしょにするようにしている。夜間はお部屋のドアをそっと開け見回りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所、管理方法は明確に取り決め確実に行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の歩行状態の確認を散歩の時にいっしょに行い情報共有をしている。食事も咀嚼、嚥下状態により食形態を変えている。服薬マニュアルがあり準じて与薬している。事故が発生した場合には事故報告書の作成を行い問題点を話し合い再発防止に努めている。年1度消防訓練を行っている。		

ウエルケア新羽(新羽二丁目)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	契約訪問看護ステーション主催の勉強会へ参加、緊急時マニュアルの作成をし備えている。	○	急変時(発熱、転倒時)の対応をテーマに法人内研修で発表を行った。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年1度行っている。又地域の合同訓練に参加し(今回初)地域の協力が得られるよう働きかけていく。	○	訓練は消防署員立会いにて、消火器の使用訓練も行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒のリスクについては契約時に説明し納得いただいている。状態に変化があった場合などは随時連絡を行い、月一回状態報告書を郵送し報告している。家族が面会に来られた時には直近の様子を伝え、訪問診療医にも本人本位の生活が継続出来るよう相談しながらケアの共有を行うようにしている。必要に応じ家族に医師より状態の説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルをチェックし記録する事によりバイタル異常時の情報を共有し経過観察、契約訪問看護ステーションへ連絡し指示を仰ぎ、また必要に応じ急行してもらい医療機関への速やかな搬送を行うようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに個人服薬情報があり、職員は随時確認することが出来る、また変更があった場合も申し送りを徹底し確認している、服薬マニュアルがあり与薬には十分気をつけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩・体操等の運動をしている、下剤の内服だけに頼らず、水分摂取、牛乳、ヨーグルト、かんてんなどを使った食べ物で工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行い、必要に応じて介助している、訪問歯科とも相談し支援している。		

ウエルケア新羽(新羽二丁目)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を把握する為のチェック表を作成し毎日記録している。その都度、摂取量が少ない本人には声かけし好きな飲み物を用意してすすめている。献立は法人内の介護老人保健施設の管理栄養士が作り、主菜は施設より配食され栄養バランスの取れた食事を提供している。	○	水分不足気味の方には、お茶寒天ゼリーにて一定量になる様調整している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを作成し、職員に知識を持ってもらうようにしている。外部研修に参加し会議で報告し全ての感染症ではないが感染予防と蔓延防止の対策を講じている。	○	全ての職員を外部研修に参加させたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理表を作成し衛生管理につとめている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周り駐車場・建物の周囲を清潔にし玄関、庭には草花・畑には作物が出来、誰もが親しめる環境作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の草花がある。リビングはカーテンで日差しを遮りリビングから玄関への戸を開放し、玄関に置いてある椅子に腰かけの外を見て座ってすごされる方、ソファに座って大型テレビを見てすごされる方、その人なりの過ごし方をされている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのコーナー、椅子、テーブルの位置等を工夫し居場所を確保している。		

ウエルケア新羽(新羽二丁目)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者好みのベット、寝具、箆笥、机、椅子、鏡台、仏壇、テレビ等一人一人思いのものがああり、それぞれ過ごしやすい部屋になっている。ドアを開放しても部屋の中が見えぬようおしやれなのれんをかけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレには気にならない程度の消臭剤を置き、掃除の際はフロアの窓を開け空気の入換えを行っている。冷暖房の調整をこまめに行い、備え付けの24時間換気設備を活用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はフルフラットであり余計なものは置かないよう整理整頓をこころがけている。また浴室、トイレ等必要箇所に手摺の設置をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常に職員が注意をはらい、できる事は時間がかかっても見守り、できない場合はさりげなく職員がカバーする。「お手伝いしても良いですか〜」		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内で園芸活動を行っている。季節によりウッドデッキにてお茶を飲んだりして楽しんでいる。「今日は天気も良いしウッドデッキでお茶でも飲みませんか〜」		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

ウエルケア新羽(新羽二丁目)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

庭の畑で育てた野菜が食卓に並びます、皆で収穫し皆で調理し皆で楽しく食事をします。週に1回音楽療法士による歌の会があり皆で楽しくリズムに合わせて身体を動かし手拍子をとって大声で歌い、大声で笑い音楽を満喫しています。時には外食をしたり出前をとったりと笑顔ある光景がホームにはいっぱいあります。春はお花見、また夏にはスイカ割りや流しそうめん、納涼祭に家族と出かけたり、秋には地域の方と芋ほりや運動会、冬には家族を招いてのクリスマス会を開催する等季節に応じた生活を楽しんでいます。